

加藤木工

加藤 渉
第9期生



経歴

酒田の老舗家具製造業者の後継者として経営を取り仕切る加藤渉さんは、大都市圏の大手やベンチャーなど多様な企業での経験を経て、酒田の伝統工芸品である「酒田船簞笥」の伝承を志している。経営観・会計知識・生産管理・デザイン・マーケティングなど豊富な経験と知識が、どう地域の中小企業経営に活かされているのか。今回は「加藤木工」加藤渉さん取材した。

加藤さんは、仙台電波高専を卒業後、東京エレクトロンのグループ企業でフィールドエンジニアとして活躍した。クライアント企業の生産性向上や、業務効率改善を支援する中で、経営目線を培った。その後、家業が家具製造業であったことも影響し、インテリア関係のベンチャー企業に入社した。この会社では前職の経験を活かし、売上を1年間で8千万円から4億円に伸ばすことに貢献。その手腕が高く評価され、アメリカ工場の立ち上げ責任者として派遣されたが、その間、日本本社が倒産するアクシデントに見舞われ、帰国を余儀なくされた。経営陣が「作ったものは必ず売れる」と過信して過剰生産に走り、膨大な不良在庫になったことが倒産の原因だった。

加藤さんは、以前学んでいたトヨタ生産方式の考え方に基つき、会社の異変にいち早く気づき経営陣に提言していたが、受け入れられなかったという。この経験から、「必要な時に、必要なものを、必要な分だけ生産する」という「ジャストインタイム」の考え方が、現在の加藤さんの経営哲学の根幹を成している。倒産後は製造業系の派遣会社に就職した。前職での実績を評価され、派遣先は国内の超一流企業であるCanonの本社デザインセンターだった。ここでデザインやマーケティングに関わる業務をこなしつつ、前職の経験を活かして、業務の自動化等にも貢献し、Canonにとっても不可欠な人材へと成長を遂げることとなった。

転機

Canonから正社員登用の打診を受けた矢先、大病を患い長期入院した。再発の危険性もあることから正社員登用は破断となり、一生涯病氣と付き合っていくかなければならないことを考え、家業を承継することを決意した。

加藤木工は、酒田の伝統工芸品「酒田船簞笥」を製作する唯一の企業だ。加藤さんは卒卒時から、セカンドキャリアを「酒田船簞笥」の伝承に捧げたいと考えていたが、予定より早く酒田にUターンしたのは、大病を患ったことに加え、インテリア関係の企業で働いていた際、世界最大級の家具国際展示会場で感じたことが大きい。そこには「和」の製品がほとんど展示されており、寂しさを感じたという。海外での生活を通じて日本人の心をより

深く意識するようになり、日本の伝統を継承する家業「加藤木工」に誇りを持つようになったと語ってくれた。

とは言え、伝統の伝承には長い時間と継続的な事業運営が必要だ。そう考えた加藤さんは、新たな収益の柱（キャッシュ・イン）としてねけしビジネスを立ち上げた。

木工という本業に軸足を置きつつも、木材を加工して猫のこけしを製作・販売するという新たな分野への挑戦だ。加藤さんのSNS戦略も奏功し、「老舗家具屋さんが何か面白いことやつて」と地域で話題になり、様々なメディアに取り上げられた。その結果、皇室三笠宮様の視察受入や、酒田市から、フランスで行われた北前船関連のイベントに説明員としての同行を依頼されるなど、想像を超える成果を呼んだ。まさに「招き猫」である。

現在ねけしは、既存コンテンツのキャラクターとコラボすることで、新たな市場を開拓するキャラクタービジネスへと発展しつつある。これまでの経験で培ったCADのスキルを活かし、自動化による生産性向上にも取り組んでいるが、このビジネスが本格的に軌道に乗れば、いよいよ生産が追いつかなくなる。「ジャストインタイム」の考え方に基けば、今が生産設備を拡大し、大幅な増産に踏み出すべきタイミング。そう加藤さんは考えている。

“アニキ”加藤渉の存在

加藤さんが若手経営者塾に入塾したのは49歳の時で、原則45歳以下という入塾条件を超えての参加だった。塾の講義で、他の塾生の気づきに繋がるよう毎回口火を切つて質問し、活発な議論を促したという。地域を考え、地域を盛り上げようとする多くの若者がいることに感銘を受け、「その想いを実現するためには何が必要か」ということに気付くヒントを得て欲しかったからだ。加藤さんの「アニキ的役割」が「ハマった」ことで、第9期は常にデイスカッションが飛び交う活発な一年となった。

加藤木工は来年、フランスのショッピングモール（ル・ブル美術館に隣接し、パリコレの会場にもなっている）で開催される大規模展示会に、「酒田船簞笥」を展示する。その場所、決して安くはない「酒田船簞笥」を販売すること、世界に向けて発信することが目下の挑戦だ。既存事業からピボットした「ねけし」をキャッシュエンジンとし、本来の目標である酒田船簞笥の伝承を成し遂げ、地域の価値を向上させる。招き猫が切り開く地域の未来に、今後も注目していきたい。



酒田船簞笥とねけし

